

# ワクチンの有効性

現在、日本ではファイザー社、モデルナ社およびアストラゼネカ社のワクチンが、予防接種法における接種の対象となっています。いずれのワクチンも、海外で数万人単位の大規模な臨床試験が実施されており、**発症予防効果は、ファイザー社のワクチンが約95%、モデルナ社のワクチンが約94%と、高い効果が確認されています。**

また、アストラゼネカ社のワクチンは、海外で実施された複数の臨床試験の併合解析の結果から、約70%等の効果が確認されています。

現在、日本で接種可能なワクチンは、いずれも、ワクチンを接種するメリットが、副反応のリスクを上回るため、接種をおすすめしています。

(厚生労働省 / 新型コロナワクチン Q&A より)

## 発症予防効果

ファイザー社製

約 **95%**

モデルナ社製

約 **94%**

※ワクチン接種後でも新型コロナウイルスに感染する場合があります。また、ワクチンを接種して免疫がつくまでに1～2週間程度かかり、免疫がなくても発症予防効果は100%ではありません。



ワクチンを接種するメリット > 副反応のリスク

## 特集 新型コロナワクチン接種



問合先 新型コロナワクチン接種推進室 ☎ 39-6596

# あなたは、どうする？

～あなたと大切な人を守るために～



## 若い世代の方がワクチン接種を受ける意義



### ワクチンは若者の健康、命を守る

ワクチンの接種を受け、免疫ができることによって、感染や発症の確率を大きく減らすことができます。また、**仮に感染したり発症してしまったとしても、症状のある期間が短くなったり、重症化を防いだりする効果も期待できることがわかっています。**

### 高齢者や持病のある家族を守る

ワクチンが守るのは、接種を受ける本人だけではありません。自分自身がワクチン接種を受けることで、感染しにくくなり、仮に感染してしまってもウイルスの量を低く抑える効果が知られているため、**同居する家族や日常的に接する友人、同僚を守る効果も期待できます。**身近に重症化リスクの高い持病のある人や高齢者がいれば、なおさらワクチンが重要になると言えます。

### リスクはあるが軽いものとどまる

ワクチンにはデメリットもあります。若い方の方が、高齢の方より副反応の頻度が高い傾向にあるようですが、**ほとんどが2～3日以内に回復しています。**

### ワクチンのリスクと感染症のリスクを比べる

ワクチン接種の選択は、ワクチンを受けるか、いずれ新型コロナウイルスに感染してしまうかの選択になるということです。感染のリスクは、重症化や長期にわたる後遺症のリスクでもあります。ワクチンのリスクを考えるなら、ウイルスのリスクと比べる必要があります。

※厚生労働省ホームページ「若者のワクチン接種、メリットとデメリットの考え方」より抜粋。詳しくはこちらをご覧ください。▶▶



高い発症予防効果。発症しても重症化を防ぐ。

自分だけでなく、大切な人を守る。

接種による副反応は、ほとんどが2～3日で回復。

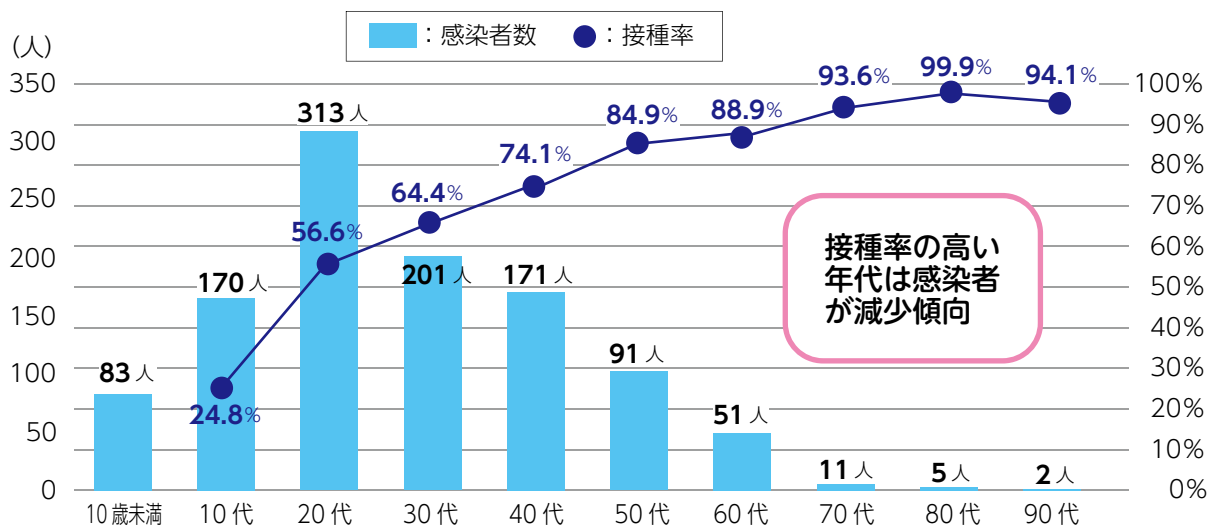


周りの人のためにもなるのね！

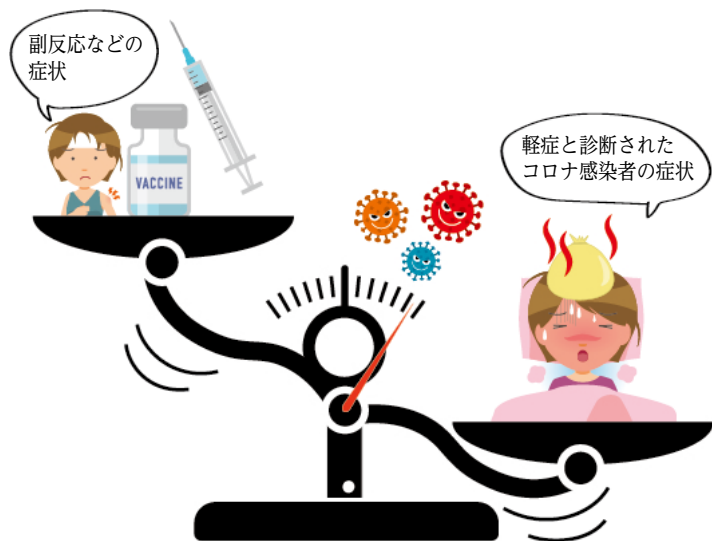
# 小牧市のワクチン接種率と感染者数

※年齢の高い方から順に接種を進めています。

(※接種率は9月28日時点で1回以上接種した人、感染者数は8月1日～9月26日の愛知県発表分)



接種率の高い年代は感染者が減少傾向



## 「軽症」は必ずしも軽くない！

大半が軽症で済んでいるとはいえ、38度を超えるような高熱を出し、咳が2週間続いても、「軽症」に分類されます。

また、感染した若者の中には、今も嗅覚や味覚障害、疲労感、記憶障害などの長引く症状（いわゆる後遺症）に苦しんでいる人がいるのが現状です。

※厚生労働省ホームページ  
「若者のワクチン接種、メリットとデメリットの考え方」より抜粋

## ワクチン接種に関して、差別・偏見・いやがらせは許されません！



体質や持病等の身体的な理由を含め、さまざまな理由により、ワクチンを接種することができない方、望まない方もいます。

ワクチンの接種は強制ではなく、あくまで本人の意思に基づき受けるものであり、接種していない方に差別的な扱いをすることのないようお願いします。

## 正しい情報入手し、適正な判断を！

(厚生労働省 / 新型コロナワクチン Q&A より)

SNS やメディアでは、新型コロナワクチンに関してさまざまな情報が溢れています。特に、SNS では発信者が不明、または科学的根拠や信頼のおける情報源に基づいていない、不正確な情報があり、注意が必要です。

例えば、ワクチンを受けた後に起きた好ましくない出来事(有害事象)を、因果関係が分からないにも関わらず、あたかもワクチンが原因であるような書き方をしている情報もあります。ワクチンの安全性については、大規模な臨床試験だけでなく、承認後の安全性の監視システムによって常に調べられており、調査や評価の結果は国内外の公的機関から発表されています。

ワクチンの情報に関しては、複数の専門家のチェックを受けた、科学的根拠に基づいた情報発信をしている公的機関や団体などから情報を得ることをおすすめします。例えば、こうした情報源としては以下のようなものがあります。



厚生労働省ホームページ



首相官邸ホームページ

